

第 2 回 子ども未来応援会議

日 時 平成24年1月27日(金) 午前10時より

会 場 藤枝市役所西館3階 303会議室

出席者 委員

大坪委員長、岡村委員、片山委員、金原委員、栗田委員、小山委員、佐野委員、
清水委員、榛葉委員、大社委員、禰津委員、堀見委員、松永委員、村本委員

教育委員会

教育推進室職員

○協議

委員長

先日、話をしました「教育日本一」について、話を深めていきたい。

A委員

教育関係の仕事に携わって40年になるが、人づくりは学校教育の前が大事だと思っている。教育日本一を言うならば、教育基本法の人格の形成であり、ブレないで人間らしさをどうすれば形成できるかを0歳児から追及していく方向がいいのではないかとアンケートで提出しました。

何が人間らしさかは、皆さんの提案を基に詰めていけばと思いますが、三つ子の魂百まで、乳幼児期の教育なくして人間教育はないと思います。

委員長

質問なんですけど、三つ子の魂百までや人づくりなど、50年あるいは明治から言ってるのに、まだ同じ事を言わなければいけないのは、何が原因だと思えますか？

A委員

人間は目に見えるものの方が成果が出たり価値があると考えてしまう。皆を楽しませたりやる気にしたりすることよりも、見える100点に価値を感じる。目に見えないものを育てることを教育の裏側に一番に据えなければならないのに、数値化できるもので評価しようとする。それは、国の経済効果を推進する、成果を教育にも求めることが、見えないものの価値を教育の歴史の中で後ろに追いやったのではないかと。

どなたかが遊びが変わったと意見されていたが、70年代に広場がなくなって肥満が増え、80年代にディズニーランドとテレビゲームの登場で

遊びは買うものになった。人間関係は切れ、生き物はたまごっちのようにリセットすれば生き返るものになった。

90年代には少年が臭かったという理由でホームレスを殺害する事件があり、医者人が人を殺してもいいという感情になったオウム事件が起こった。

幼児期の子どもは蛙をギュッと握ると死んでしまうことに驚き泣く、でも、そうした経験をした子は命を大事にする。時代時代に大事にしなければならないものより、数値化による価値が進んでしまった。

委員長

明治の教育勅語を知ってらっしゃる方はいますか？あれがあったから戦争したんだと言う人がいるが、すばらしいことが沢山書いてある。

戦後何回も、最近でも教育改革が言われているが、うまくいっていない。

実用英語学会の講演を頼まれて皮肉を言ってきた。50年間、これだけの人材を投資し、外国語大学を作り、国費を大量に投入したにも関わらず、日本人の英語が上手にならないとは何たることかと。

B委員

先程、遊びが変わったとの話があったが、情報化社会も進んで変わっていくのも当然かもしれないが、日本の古い文化を知ってほしい。ふすまの開け方などの和室の作法や、お茶の作法、お辞儀なども、親の世代でもわからない。

C委員

先日、駅にある藤枝市の観光案内所に行って、「藤枝市と言えば何？」と聞くと「サッカー」と答えた。「2番目は？」と聞くと「お茶」と答えた。「3つ挙げてもらいたい」と言うと、しばらく考えた後に「朝ラー」と答えた。

今朝、藤枝市役所の総合案内で、市民憲章のパンフレットがあるか聞いてみたが、パンフレットはなく、市を紹介するパンフレットからも今は削除されてしまったとの答えだった。情報コーナーでも探したが見つからず、職員が分厚い3冊の冊子を持ってきて「この中のどっかにあります」と言いました。

市民憲章は死物化してしまっている。子ども像を定めるにも、しっかりとした「子ども観」を持って定めないと、死物化してしまう。

第5次総合計画の「元気共奏・飛躍ふじえだ ～元気つながる、笑顔ひろがる～」この言葉で十分ではないか。全市民の心にこの言葉が修まっていれば、それだけで日本一になれると感じている。この会議も何らかの形に集約できればいいと思う。

D委員

昨年、市長と語る会で市長のが藤枝は人口増加率も長寿に関しても、県内トップクラスの市だと伺った。また、スイーツのまち、居酒屋がコンクール

などで盛り上がっているとか、日本でも有数の酒蔵があるまちとの話も聞き、改めて藤枝は豊かで楽しいまちだと感じた。

藤枝を知るということは、自分を知ることにもなるので、もっとアピールして欲しいし、自分も情報をより受信できるようにしたい。

また、「子どもが安心して学べる学校づくり」の会議にも参加させてもらっているが、小中学校に実施したアンケートでは、いじめの数は減少しており、楽しく学んでいる点や悩みを話せる相手がいる点は増加していた。今、学校では仲間力・人間力を育成するためにピアサポートに取り組んでいるが、これを地域全体で取り組めればいいという結論になった。

親としては、先生が授業内容を充実させることができる環境を整えてあげたいと思うし、子どもが楽しく笑顔でいられるまちにしたい。

委員長 資料の内容、目指す子ども像についての意見はありますか？

D委員 資料にコミュニケーション能力とありますが、人間関係が楽しくできないと毎日楽しくならないので、コミュニケーション能力が重要だと思います。

委員長 逆説的になってしまうが、日本人は人間関係を大事にするあまり、発言できなかつたり、行動できなかつたり、萎縮してしまうことがある。

外国でも人間関係はあるが、人間関係を気にして鬱になってしまったり、会社に来れなくなったり、どの程度でどんな人間関係がいいのか。

D委員 お一人様文化という言葉があるように、1人でカラオケに行ったり食事に行ったりということが増えているが、例えば災害があった時など協力体制がないと困ることもある。

委員長 難しい話になってしまうが、マンション生活は人間関係を希薄にするが、人間関係が嫌だからマンションに住んでる人もいる。そんなマンションに住む子どもを教育の中でどう解決していくかは難しい問題だと思う。

A委員 幼稚園教育も教育要領があって教科の柱が5領域に分かれているが、その一つに人間関係がある。ゼロ歳児からきちんと人間関係をどう作るのかは、教育の中心課題になっている。そこで言うのは「あなたが大事だよ」という自己肯定感をすごく大事にしている。

この自己肯定感を、自己選択能力を持って人間関係を作らないと、結局ストレスになる。子育て支援を行う中で、若者や学生は、この自己選択能力

がすごく難しい。だから、揺れてしまう。

「あなたが大事よ」という部分と、他の子とぶつかった時に自分をコントロールして折り合いをつける力は幼児期の教育の大事な柱になる。

委員長 これも議題の中に含まれる大きなテーマだと思います。

E委員 前回、お祭りを通して地域の子どもと接する話をしたが、大祭りでは踊りの練習に師匠を呼ぶが、子どもたちが騒いで仕方がなかったので師匠が叱ったことがあった。その時、後で子どもの親が師匠のところに来て、「私も子どもを叱ったことがないのに」と文句を言われたという。

その親が、「ゆとり教育」や「個性」と言われて育った世代で、親自身がそうなっている。子どもの教育を考える前に、それを考える必要がある。

何を日本一とするかについては難しいが、数字で表すもので考えると、不登校の数もあると思う。今は小学生20人、中学生70人ほどで、一時期は100人を越えていたのが、減ってきてはいると聞いた。PRのためにやっている訳ではないが、もしゼロにできれば全国的にも注目されると思う。

また、前回サッカーを通じてという話もでたが、やはり他市の人に聞くと藤枝のサッカーというイメージは強い。体力面やチームワーク、相手を尊重するという人間性の基本的な要素もあり、サッカーを通しての教育を基本におくこともいいのではないか？ただ、それでは指標にならないと言われるのならば、それは不登校の数という部分を結果とすればいいのではと考えた。

委員長 不登校の問題というのは大変興味深いテーマだと思うが、私たちの大学でも、生徒がやめてしまうという問題がある。実は会社でも同じなんです、3年ももたないと言われる。

E委員 今、就職率が非常に悪い。高校の先生に聞いたら、親が「そんなに無理しなくていい」と言うそうです。私たちの頃は、大変でも勤め続けた。子どもたちはそう思っているのかもしれないが、親の方ではそんなに無理しなくていいという感覚。そうなると子どもも何が何でも就職という気持ちにはならないのではないか。

委員長 何で会社を辞めてしまうのか。これを研究すると宝の山なんですよ。

先進的な会社では、辞める人の調査をしっかり行っている。確かに辞める側にも問題はありますよ。でも、しばしば雇用する側、大学で言えば教育する側に問題があることがある。そういう発想で見ると、ものすごく改善の余地

がある。先進的な会社では部下が辞めるような上司は能力がない、リーダーシップがないと見る。一般的な会社では、辞める人にやる気がない、根性がない、能力がないと見る。

不登校については、いろんなことがかなり研究されていると思うが、もっと評価すると、教育で何をしなければいけないかが出てくるのではないかと。何でこのまちから人口が出て行くのか、市役所がどんな出口調査をしているかわからないが、一般の会社は根性論で終わってしまっている。

辞める人がいなくなれば、教育日本一と言えるかもしれない。

F委員

教育日本一で何をめざすかと考えた時に、めざすような人、大人がいないのではないかと。例えば徳川家康がどんなことをしたのかのように歴史を掘り下げたり、地域の人と多く出会うことで、めざしたい人を見つけるということが、何のために勉強するのかという部分にも必要になると思う。

今は、何でも均一化されていて、どこの観光地に行っても同じコンビニやチェーン店があり、みんな同じ街に見える。私たちは地域の特性を出そうという活動をしている。藤枝のまちづくりとして特徴を出していければ、地域に誇りを持って、それも教育日本一に繋がっていくと思う。

委員長

地域に誇りを持つということは、とても重要なテーマだと思う。この地域の時代に、地域愛に溢れた人が出てこないといけない。

文科省と通産省主催の会議でこれからのリーダーの要件について話した時に、私は地域愛のある人が最大の条件と答えた。どうやってこれを育てていくかは教育の大きなテーマだと思う。

藤枝が世界で一番いいまちだとなれば地域愛も高まっていく。

F委員

私たちも事業を企画していく時にいろいろ研究することで知ること多い。子どもたちにも自分で調べて藤枝を知っていく機会があるといい。

G委員

何回も出ていますが、不登校なし日本一が面白いのかなと思います。

では、どうしていくのかと考えた時に、核家族化が進んでいるということから地域の輪をもつこと。コミュニケーション能力の育成が重要。

藤枝と言った時にサッカーも出てきたが、もう一つお茶もある。その作法、文化というものを取り入れた教育ができないか。自分たちもお茶の立て方もわからない。言い伝えることができていない。人が集まる場所と語り伝える何かがあって、みんなで育てていくことができれば面白いと思う。

委員長 お手元にあるアンケートの結果を含めて、ご意見をお願いします。

H委員 前回も子どもは遊ぶことが大事、遊ぶことが仕事みたいなものと話したが、A委員がおっしゃったように遊びが変遷してきている。私が子どもの頃は田んぼでアイスホッケーをまねて遊んだり、蛙を捕まえて殺しては足だけを取ってザリガニを釣ったりした。今の親は殺しては可哀想と言って子どもを止めるが、自分はたくさん虫を殺したが残虐な人間になってはいない。

ただ、遊びは確かに変わってきたが、自分の目で見て体験して感動することは変わっていない。私は映画で言えば「禁じられた遊び」、小説なら「シートン動物記」、そうしたものの感動は、字を書いて生計を立てている現在にどこかで繋がっていると思う。

教育日本一と言った時に、藤枝市も目先だけで考えている訳ではないことはわかるが、どうしても数値を競い合うということが出てきてしまう。

そうではなくて、映画でも本でもスポーツでも、本物に触れる、体験することを徹底する。誘導していくことが重要ではないかと思う。

静岡県舞台芸術センターの宮城総監督が「本物を子どもたちに体験させたい。その時にはわからないかもしれない。でも、今はわからなくてもいい、心に受けた感動は将来に残って、必ずいい方向に向かう。」と言っていた。私もその通りだと思う。藤枝はサッカーのまちであり、長谷部選手という人間的にも素晴らしい人が現役でいる。舞台芸術センターもそうだし、地元を誇りをとの話しもあったが、地元の職人さんも本物だ。そうした本物を見て体験することの積み重ねが教育日本一に繋がると思う。

委員長 なかなか含蓄のあるご意見だと思います。ものの判断はどうやってできるかという学問もありますが、昔はどう骨董屋を育てたかという、偽物は見せず本物だけ見せたそうです。私も同感で最高級品・一流品を見ないと、いい物を見る判断力は養われない。

例えば、藤枝市の小学生は全員、日本最高の絵画を見ることができる旅行があるとか、わかりやすくいい教育だと思う。本物のピカソや横山大観の絵を見たことある人はあんまりいないと思う。

I委員 最初に委員長から教育をいくら論議しても良くなってこなかったじゃないかという話がありましたが、戦後の教育は戦前を全て否定するところから始まったので、私も大学で明治の教育勅語については何も教わっていません。

戦後の教育の中で、一番欠けていたものは道德教育です。道德は初め学習指導要領にも載らず、後になって追加されてきた経過があるが、今でも

教科化されておらず、教科書がありません。

最近の学習指導要領改訂でも、愛国心を入れるかどうかという、個人的にはよくわからない議論の末に少し濁した形で入れていった。戦後の教育の中で一番欠けていた部分について、未だにストレートに切り込んで改訂できないところが、日本人の根幹の人間性を弱めているのではないかと思う。

戦前は、「修身」があったが、教育勅語では「…忠に、…孝に」ということから「地域を愛し」という中から国を愛するという儒教思想と日本の太古から馴染んできた考え方だが、全部ゼロになってしまったまま。

そうした中で戦後生まれの人は育って来ていて、地域や日本という自分が立脚する部分を愛せない又は親しみを持って肯定できないことで、自己肯定感が揺らいでいる。日本という国を日本人はあまり好きじゃない感情が多い。戦争などで悪い部分もあったと思うが、逆にユダヤ人を救った杉原千敏のような人物もいたのに、日本人ならではの、やさしさや徳といったものが伝えられていなくて、日本人なんて取るに足らないように思っている節がある。人を否定している分にはいいが、結局は日本人である自分を否定することになる。

若い人の自己肯定感はずごく低くて、大学でも学生に対してまずはそこから対応するが、私の仕事は4年間ほとんどこれで終わってしまうくらい。

学力はもちろんとても大事なことだが、市長もそこだけを考えている訳ではないと思うし、ここでの議論も踏まえて、精神性や規範性、地域を愛するというような部分で一つ出せばいいのではないかと思う。

ただ、不登校に関しては難しい問題がある。不登校になった子どもだけが悪いのか学校や家庭に問題があるのかとか、無理やり学校に戻すことがいいことなのか。また、そうした問題も理解した上で数字を出せるのか、「あの家の子どもは不登校だ」ということが地域で注目され孤立するようなことになれば、藤枝市はなぜこんな目標を出したのかと言われかねない。

静岡は内輪ではいいが、よそ者には閉鎖的。地域を改革するにはよそ者を入れることがいいのにできない。私の話を聞いて、古いものは全ていいと聞こえたかもしれないが、伝統は全て引き継ぐものではなくて、変えるべきところは変える。変えながら、変えないものは変えないことだと思う。

委員長

人間関係は、どうゆう発展段階で、どうゆう教育水準にあるかによって違う。ある町では、子どもたちがある地区だけ迂回して学校へ行くという。なぜかという、そこにはお節介なお爺さんお婆さんばかりが住んでいるので、避けている。人間関係はお節介でもある。会社でも、上司が鍛えてやろうなんて思_えと部下は離れていってしまう。

J委員

私の学校は児童生徒数で全国で3番目に大きい特別支援学校。志太・榛原圏域に唯一となるため遠くからも一つの場所に集められている、全く誇れない順位。だからこそ、誇れるもの、誇れる人を育てたい。

最近だと東海4県の特別支援学校サッカー大会で優勝し、特別支援学校の全国美術展で1人優秀賞になった。これは誇れること。

教育日本一ということからも、藤枝から全国に誇れる、あるいは世界に誇れる人がどれだけ出ているのだろうと思った。これを考えるきっかけは、高校の校長会に出た時に、今の高校生は卒業してから県外に出ていこうという気概に満ちた子が少ないという話が耳に残っていたから。就職も地元で実家から通えるところだと探すから苦しくなる。また、海外への留学生も減っていて、会社でも海外勤務は嫌がる。グローバル化と言われインターネットで世界と繋がっているつもりでも、実際に外に出て関わることが下手になっている。

うちの学校の生徒も、人付き合いが下手でいっぱい支援が必要だが、日頃から大人社会との関わりが少ない。生徒同士でもごく近い仲間とだけ友達言葉でほとんど単語のやり取りなので、実習に出すと社会の厳しい目でバツをたくさんもらって来る。小学校でも社会見学、中学校では職場体験を行っているとは思いますが、もう少し踏み込んだ形にならないかなと思う。

委員長

少し脱線になるが、藤枝のまちを見たときに道路にも建物にも人の名前のついたものがない。皆さんご存知だと思うがニューヨークの飛行場はJ・F・ケネディー空港。静岡では徳川家康も駿府公園に恥ずかしそうに銅像があるだけ。日本では誇れる人を称えようという概念があるのだけど希薄なのではないか。大学にリーダーシップ論という講義があるが、貧困に喘いでいた人を救ったような人物を称えようということもない、これはどう教育したらいいのか。歴代市長の名前がついた道路があつていいし、優れたお医者さんの名前のついた病院、誇れる人の名前のついた学校があつてもいいのではないか。

I委員

それは「恥」の文化とか、脈々と流れる日本人特有の精神性で、自分の名誉を「すごいだろ」とも誇らないし、称えない。慎ましやかにするのが美德とされるからではないですか。花の名前をつけるのは好きですけど。

E委員

田沼街道は名前がついてますね。

委員長

ただ、正式名称にはなっていないですよ。

D委員 地名としては正式についてますね。田沼意次ということですよ。

I委員 藤枝は地名では多いですね。

K委員 皆さん学校は行かなきゃいけないと思ってますよね。自分の子どもが中学生だった時のことですが、学校の勉強が何の役に立つのかわからないのに、いろいろ押し付けられて勉強が嫌で嫌で学校に行きたくない、涙を流しながら言ったことがあった。それ以外のことで学校に行きたくない理由はないとのことだったので、自分は「そんなに行きたくないなら行かなくていい」と答えた。それは一時的な出来事だったが、なぜ、学校に行かなければいけないのか？という問に対して、どれだけの親がちゃんと答えられるのだろうか。原点に立ち返って疑問に思う時がある。

逆に大人は選挙に行く責任があると思うが、その責任を果たしている大人が何パーセントいるのか。ここには目指す子ども像として6つの案が示されているが、これがちゃんとできている大人がどれだけいるかと言えば、0.00何パーセントくらいになってしまうのではないか。

人づくりはガクンと極端に良くなるものじゃない。明治から人間性が荒廃して低くなっているとして、子どもの目指す場所がこんな高いところがあれば、達成できるわけがない。今の子どもの親の世代が、どれだけ社会的責任を果たしているのか、というところから始めないと子どもが可哀想だと思う。

最近よく考えるのが当事者意識。どれだけ自分が責任をもって物事に望むのか。当事者であるという覚悟とか責任が欠落していると思う。権利ばかりを主張する人が多いが、権利に対する義務、自由に対する責任をどれだけ果たしているのか。

子ども未来応援会議という名前のこともずっと考えていたが、親も一緒になって、藤枝市をあげて社会の形成と人と向き合って生きていくことを考え、それを実行すれば、自ずと日本一になっていくのではないか。原点は、親と子が向き合うこと、「おはようございます」、「いただきます」、「ただいま」とか、ちゃんと言えているなら、教育をどうしようなんて難しいことを考えなくてもいいのではないかと思う。

委員長 皆さんの提案の中に、「笑顔の数日本一」とか「挨拶の数日本一」などがあるが、今言われたことの反映と捉えていいですか？

K委員 もっと楽に、子どもたちにもわかりやすくしてあげたい。大人ができていない

のだから、大人も一緒にできるようなことでいい。

委員長

大人もやらないとダメだね。よく大学でも言うが、若い人より大人がダメ。学生に言われたことで、「授業中に携帯電話がうるさいとか、私語がうるさいと言うが、国会を見てください。総理大臣の答弁中に野次を飛ばしている。」子どもは我々を見て育っている訳だから、原因は大人にあるのではないか。私は大学では、できない学生は1人もいない、教えられない先生の方が悪いと言っている。学生に忍耐力がないと言われれば、忍耐力があるように育ててくれと言っている。

I委員

まず、先程の義務教育の話ですけど、保護者に子どもを学校に行かせる義務があるので、子どもに義務はありません。ですから、なぜ学校に行かなければいけないかは、親がちゃんと答えられるように考えなくてはいけない。通り一遍な言い方だけど、今の時代にはどうしてもここまでは必要だからとしか言えない。

ただ、現実実感しているのは、学生をいくらいい子に育てても一次試験はペーパーなので、いいところを見てもらうにはペーパーを通らなければならない。また、教員になりたいという学生がいたが、小中学校の時に不登校だったため基礎ができていなくて、大学で好きな勉強をする上で不都合があり、その必要性を感じた。

日本は学校以外では学校の勉強ができない環境になってしまっている。私は、学校に行かなくても、学校と同じ勉強ができる環境があつていいと思っている。

K委員

学校へ行かなくていいと言った私は、義務を果たさないということになると思う。でも、学校に行かなくても学力は身につけさせられるし、コミュニケーション能力も育成する方法はある。もし本当に子どもが学校に行くのが嫌になったら、自分が学校の勉強を教えるくらいの覚悟は持っていた。

だから、選挙に行くことや税金を納めることについて、学校に行くことと同じように目くじら立てないのはおかしいと思う。

委員長

アメリカでもフリースクールやチャータースクールという議論がある。

I委員

外国ではこの学校が行けなくなったら、別に勉強し直せる学校があり、元の学校に復帰することもできる制度があつたりするが、日本はそこまでの保障できるシステムはまだない。

大人が学んでいないというのは、私も考えています。生涯学習ということが言われているが、今までは気が向いたらとか趣味とか教養などが取り上げられていた。でも、現在は変革期であり、自分たちこそ考えを変えていかなければならないという意識を持たないと、子どもはついていけるが大人は取り残される時代になると思う。

A委員

子どもの問題を話すと大人の問題は除けられてしまうが、本当は子どもの問題を話す時には大人がどうするのが重要。その意味で、とても素敵な会議だと思います。

幼児期の遊びは、その子の将来を決めるくらい大事なこと。その遊びのママゴトからお母さん役お父さん役がいなくなった。モデルとなる大人がいなくなった。大人がリンゴを包丁で剥くのを見て、それに憧れてママゴトで遊ぶ、電子レンジでチンする指には子どもは憧れない。

ママゴトは、創造性も切り開く力もコミュニケーション能力も我慢する力も育ててくれる。いじめの根源は4歳児の育ち方にある。この時代をどう豊かに育つのか、大人が問われている。

赤ちゃんは、ミルクをやりオムツを替えるとスヤスヤ寝ていたものが、2ヶ月くらいになると通常に発達した子は必ず泣き止まなくなる。母親はどうしてかと悩むが、泣くと叶えられるというコミュニケーションの第一歩を知ったということなので、私は母親にこれはちゃんと育ててきたあなたへのご褒美だと言う。子どもの問題は親がどうするかということとセットなんだということ。

L委員

アンケートの中で、「全ての大人が、慈しみ育てる土壌を創り出す」という文言があったのですが、今日の議論を聞いていて、この会議の目的もそこなのかなと思いました。

前回は、学校教育というものが教育日本一としてのスポットが当てられたが、学校教育と家庭とか地域の教育力も含めないと、大人のモデルを創り出すということは不可能だと思いました。

藤枝市の教育に自分もずっと関わらせていただいたが、授業で人を育てるとの伝統的な教育指針で行っている。また、ここ数年はピアサポートを通じて人間関係づくりをしており、学校教育の特色は藤枝に根付いたものがある。

地域ボランティアで学校に来てくれるようになったおじさんも、以前は横断歩道で旗振りをして子どもを渡してあげても挨拶もしないと言っていたものが、学校に入り、子どもと接し、子どもの遊ぶ声や歌声を聞くうちに子どもを肯定的に見てくれるようになり発する言葉が変わった。やっぱり地域と一緒にやっていかなければ、学校も地域に開いていかなければと思います。

した。ですから、教育日本一は地域や家庭の大人を含んだ人づくり日本一がいいと思いました。

M委員

私はアンケートを出さなかったのですが、考えてはいたのです。でも、何を書いていいのか迷って迷って書けなかった。

子ども像を示すのはいいが、逆に行政がこういう子どもになってほしいというのは、お節介だという気持ちもある。自分は行政に何か言われていないし、文科省の言うような人間にはなっていないが、何とか生きてきている。

ただ、お節介ではないけれども、みんなが気がつかないようなものはあるだろう。それを行政として示す必要はあると思うし、そう考えるともっと数は絞られると考える。

変な親が増えているという中で、行政がいろんなサービスをしているが、給食を出しているとそのあたり前になって、お弁当を持って来るように言うと怒る親がいる。衣食住は親が責任を持つことが大前提で、給食はそれが難しい時代に始めたもの。現実には、朝食を食べて来ない子どももいるということで続けざるを得ない状況があるようだが。

先程、自己肯定感という話をされたが、子どもがきちんと育っていくために必要なものは、私は「自尊感情」という言葉を使っているが、自己肯定感と似ていると思う。まず、自分が生きていくという存在そのものに価値がある。そうすると、子どもは未完成で何もできなくて、これもあれもできた方がいいとマイナス思考の話が出てくる。

でも、子どもは存在そのものに価値があることを本人にわからせることが大人が一番の仕事。その感情が子どもの中に育てば、子どもは自分の力で自分の才能を発揮できるようになると思う。

だから、大人がどういう態度で子どもと接するかが重要で、それは親であり、教師であり、地域の大人の褒め育てが基本で、温かい目で見やる。

私が中学校に勤務していた頃、アメリカ人の英語の先生に面白いと言われたのが、日本人の生徒は「あなたは良いテニスプレーヤーですか？」と聞くと大会に出るような子でも「私は良いテニスプレーヤーではない」と答える。「あなたは良い中学生ですか？」と聞くと、普通の生徒も「私は良い中学生でなない」と答える。

中学でも当たり前のことが当たり前にできても褒められない。毎日休まず学校に来て、忘れ物をしなくても褒められない。

日本一になるのに、藤枝はみんな褒めているよという大人の側の努力点があってもいいのではないかと思います。

ただ、皆さんの話を聞いて迷うばかりで、勉強させてもらってます。

委員長

褒めるというのはすごくいいと思う。私の教育観だが、日本人は褒めない、けなす。最近特に酷いのは糾弾型になってきたこと。国会でもそうだが、提案型社会ではなく糾弾型社会になっている。こういう習慣をやめるのは大前提だと思う。

また、もっと根が深いとずっと思っているのはセンター試験。高校の先生もどの有名大学に何人という話が好きだし、親も同じ。学校はセンター試験で点を取るための勉強になるし、何で医者になったのか聞くと、「センター試験で成績が良かったから医学部へ行けと言われた」と言う。

この前、医学部の先生と話す機会があり、どうして医者がこんなにダメになったんですかと聞いたら、私たちはセンター試験の好成績の人間としか話したことがないから、患者がみんな馬鹿に見えると言った。

階層ができています。日本人に負け犬根性を植えつけてしまっている。

でも、センター試験で測定できる人間の能力はほんのわずか、重大な能力はセンター試験では計れない。

極端な話ですが、何のために教育やってるかという、先生が自慢するた^まにやっている。

藤枝市だけセンター試験を離脱すると言ったら面白いかもしれない。慶応義塾大学はセンター試験を離脱する。これは、センター試験で計れない人間の能力の方が遥かに重要だということに気づいたのではないかと思っています。

20世紀は良かったかもしれないが、21世紀はそんなことをやっていたら、日本人が持っている素晴らしい能力を出させなくしてしまう。多くの会社でも問題になっているが、センター試験で偉くなった人より、ずっときょうでやんちゃな人がいろいろな新しいアイデアを出してくれる。

我々は数字で表せるものが大好きなんですよ、全て序列化しようとする。心の中まで序列化する。本当はそんなものはない。

藤枝市はどういう教育をするのか、文科省が言うような理念で教育をするのか、我々自身で社会全体で考えた教育をするのか、問われますよ。

K委員の悩みはそれが反映しているものではないですかね。画一的な数値で計れるものだけを良しとして、評価の最高基準にしていく。

教育日本一を何にするか、私もわからないが、今日は出なくていいです。

教育という問題は明日には答えは出ないですね、10年20年かからないと。